完全対策講座 英語

このPDFは、製品版の冒頭5ページを抜粋した
無料の試し読みサンプルです。目次・本文の書き方・
問題の出し方を確認してから、購入をご検討ください。
英語教材一式のうち、講義編「学習の進め方と全体地図」の冒頭を抜粋しています。

購入先

・黒田塾 教材プラン（科目別・セット価格、LINEで注文）
https://kurodaschool.jp/materials/
・BOOTHショップ「東大黒田塾」（ダウンロード販売）
https://kurodajuku.booth.pm/
・科目選びの相談（無料）
https://kurodaschool.jp/contact/

※ サンプルは製品版の一部です。収録範囲・分量の全体は
各販売ページでご確認ください。
※ 本サンプルは個人の学習用です。第三者への配布・転載・
転売・共有は禁止します。
※ 購入や読了による合格・得点を保証するものではありません。

高校英語　完成改訂版

学習の進め方と全体地図

短い文の理解から、初見の長文と記述へ

入門で土台を確かめ、講義と対応する必修演習を進めながら、単語帳と音声を並行して使います。

各問題の直後に、判断の途中を説明した解説があります。

試し読みサンプル

目次

1. 最初に開く冊子を決める 3
2. 一問ごとに、理解を確かめる 4
3. 基礎から仕上げまでの順序 5
4. 単語帳を、意味と使い方の両方に使う 6
5. 復習は、答えを見ずに思い出す 7
6. 読解の根拠を、答案へ移す 8
7. 英作文を、意味から作って直す 9
8. 音声を聞き、口でも使う 10
9. 初見の実戦演習で、仕上がりを確認する 11
10. 冊子を開く 12
11. 文法百四十四項目の戻り先 14
12. 学ぶ範囲と参照資料 21

試し読みサンプル

最初に開く冊子を決める

主語、動詞、否定文、疑問文に自信がなければ、入門「英文の最初の一歩」から始めます。四講の確認問題を解き、答えを選んだ理由まで説明できたら講義①へ進みます。すでに説明できる人は、入門の確認問題だけを使って確かめてください。

英文の最初の一歩

入門では短い一文を作ります。講義①・②で文の仕組みを学び、講義③で語の意味と使い方、講義④で読む判断、講義⑤で書く判断、講義⑥で音から意味を取り出す判断を練習します。対応する必修演習がある講には、末尾に入口を置いています。入門の確認を終えたら講義①へ、読解の第十七・十八講を終えたら仕上げの実戦演習へ進みます。

ノートを一冊用意し、日付・講義番号・初回答案・直した理由を残してください。印刷して使うときは、解説を隠すための紙も一枚用意します。スマートフォンでは問題の最後で画面を止めてから答えます。

今できること	始める場所
短い現在形や過去形でも迷う	入門の第１講から
短い文は作れるが、品詞や主語のまとまりが曖昧	講義①の第１講から
文法を一通り学び、長い文で迷う	講義④の第１講を解き、止まった文法へ戻る
読めるが英語で書くと止まる	講義⑤の第１講から
文字では分かるが、音で取れない	講義⑥の第１・２講から

試し読みサンプル

一問ごとに、理解を確かめる

説明は、場面→例文→見る場所→形を選ぶ理由→対照例の順に読みます。例文を読んだら、日本語の説明を一度隠し、「どの語を見て、何を決めたか」を口に出してください。言えなければ、その判断を説明している段落だけをもう一度読みます。

順番	手を動かすこと
1　例を追う	主語と動詞、修飾先、時の基準、指示語が受ける内容など、その講で見る箇所に印を付ける。
2　自分で解く	直後の解説を隠す。答えと理由をノートへ書く。分からない箇所は空欄のまま、どこで止まったかを書く。
3　直後の詳解を読む	正解と比較し、判断が変わった語や条件へ線を引く。記述では採点表の要素を自分の答えに対応させる。
4　答えを作り直す	解説を閉じ、主語・時・否定・条件・数などを保ってもう一度書く。初回答案は消さない。
5　別の文で使う	対応する必修演習で、説明の例と違う内容に同じ判断を使えるか確かめる。入門の確認問題を終えたら講義①へ進む。

例えば動詞の形を誤ったら、正しい語を十回写す前に「主語を取り違えた」「時を現在と考えた」「否定を受け持つ動詞の後を基本形へ戻さなかった」のどこでずれたかを一つ選びます。理由を直してから、新しい文を一文作ります。

三十分で終わらない講義は途中で区切れます。一区切りは「具体例一つを説明できる」「問題一問を自力で解き、理由を直せる」のいずれかです。翌日は前日の例を一つ言い直してから、続きを読みます。

読み読みサンプル

基礎から仕上げまでの順序

表に示す文法を先に確認してから、その段階の読解へ進みます。語彙と聴解は並行します。文法の全冊を読み終えるまで読解を待つ必要はありません。読む文と書く文が長くなる前に、その文を組み立てる形を学びます。

段階	講義の順序	その段階で確かめること
入口	入門 ST01〜04	短い文の主語と動詞、現在・過去、否定・疑問を作る。
文の土台	GA01〜04／VX01〜02／LS01〜03	語の役割と文の骨組みをつかむ。単語を文の中で覚え、音を区別する。
時と出来事	GA05〜12→GB18〜22→RD01〜02。WR01〜04／VX03〜04／LS04を並行。	時制・助動詞・受動を使い、短文を読み、場面に合う英文を書く。
文を長くする	GA13〜16→GB01〜09・GB12・GB23→RD03〜09。WR05〜06／VX05〜09／LS05〜08を並行。	準動詞と節を使い、修飾・照応・因果・条件を落とさず読む。
細部と段落	未学習のGB10〜11・GB13〜17・GB24→RD10〜16。WR07〜16／VX10〜12／LS09〜12を並行。	仮定・比較・否定・名詞の限定を判断し、長文の説明・要約・論述・聴解へ使う。
初見で仕上げる	RD17〜18／必修演習の残した課題と解き直し／未着手の実戦演習	時間を計り、初めて読む文から根拠を選び、条件に沿って答える。

文法②のGB18〜22は名詞・修飾・前置詞・主語と動詞の一致なので、長い主語を読むRD02より前に読みます。GB23の指示対象はRD06・07、GB12の比較はRD08より前に確認します。このため文法②は表の順で必要な講を先に開き、未学習の講を次の段階で埋めます。各講に「先に確認すること」があれば、その内容も確かめます。講義番号は戻る場所を短く示すための番号です。講義①はGA、②はGB、③はVX、④はRD、⑤はWR、⑥はLS、入門はSTで始まります。

必修演習は、講義で扱った判断を別の内容で確かめるために選びました。文法は百四十四項目それぞれ四問です。読解は英文解釈十二課題と二十八本文、作文は短文・和文英訳・意見文・要約・資料や画像・複数段落を順に使います。聴解と発話は音の区別から条件の統合、要約と応答へ進みます。

試し読みサンプル